

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目①】
「初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える」

困ったな...

- ・見たことのないことばは、どこからどこまでなのか分からないよ。
- ・ちょっと前に勉強した漢字なんだけど、思い出せないなあ。
- ・見たことのないことばは苦手だなあ。

- ・どこからどこまでが単語なのかや、を単語をかたまりでパッと見ることが難しいのかも？
- ・学習した文字が定着しにくいのかも？
- ・苦手な思いが先行して、意欲が出ないのかも？あるいはモーラの視点で？

理由は...

指導例①

【ポイント：文字を単語（かたまり）でとらえること】

- フラッシュカードを使って、単語をはやく読むことができるように
 - ・単語を文字のかたまりとして認識する
 - ・一文字ずつ読まなくてもパッと見て読めるようにする
- たくさんの文字の中から単語を見つけ出せるように
 - ・羅列されている文字からかたまり（単語）を見つけ出す
 - ・ばらばらの文字を組み合わせて単語を作る

指導例②

【ポイント：文字をその意味や他のことばと関連付けて学習すること】

- 漢字の持つ意味や構成、成り立ちなどを関連付けて覚えられるように
 - ・その漢字を思い出す（引き出す）きっかけとなるものの系列を多く作る
 - ・書き順による指導にとらわれない。「止め」や「はね」の評価を柔軟にする
- 熟語や日常の生活中で用いられていることと関連付けられるように
 - ・熟語などから、さらにその漢字が持つ意味を意識づけて覚える
 - ・同じ読みで意味の違うことば（熟語）や反対の意味のことばなどの学習も併せて行う

指導例③

【ポイント：できたことを評価して積み重ねること】

- 書くことへの苦手意識が少なくなるように
 - ・得意な覚え方（書き順か全体の形か）を理解して学習する
 - ・書いた時の評価をていねいにし、「できる自分」に気づくことができるようにする
- 初めての文字やことばは、特に丁寧に支援して
 - ・漢字を覚えるときのパーツ（部首など）の形と呼び方をまずは正確に覚える
 - ・先生の読みに続いて復唱し正確な読み方を覚える

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目②】

「文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする」



困ったな…

- ・ 行の終わりまで読むと次はどこを読んだらいいのかかわらなくなるよ。
- ・ 文章を読んでいると、どこまで読んでどこで休むのかわからないんだ。
- ・ 間違えずに読もうと緊張して、あわててしまうんだ。

- ・ 行の終わりから次の行の初めにスムーズに目を動かせないのかも？
- ・ 文章の区切り方（文節）が分からないのかも？
- ・ 一つのことにつけようとする、他のことがおろそかになるのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：行の始まりと終わりを分かりやすく】

○読むところ（見るところ）が明確になるように

- ・ スリットのあるシートなどを活用して、読むところだけが見えるようにして読む
- ・ しおりなどのシートを使って読み終わったところを隠しながら読む

○目を動かしたり、注目すべきところに注意を向けることができるように

- ・ 授業の初めに目を動かす練習（ビジョントレーニングなど）をする
- ・ 注目すべきところについているマーク（指や花のマークなど）を手掛かりに読む

指導事例②

【ポイント：文章を節ごとに分けて】

○文章の中に区切りをつけて、そこまではまとめて読めるように

- ・ 文章をいくつかに分けて、間を少し開けたり、／で区切ったりして読む
- ・ 複数行の文章を読むときには、行の終わりや始めのマークなどを手掛かりに読む

○読むことに集中できるように

- ・ ふりがなつきの文章、短い文章などを読むことで、読むこと自体に注意を向ける
- ・ 文字の色が違ったり下線が付いたところに注意して読む

指導事例③

【ポイント：まずゆっくりていねいに読む習慣を】

○ゆっくりていねいで正確に読むことを目標に

- ・ まずはゆっくり読んで正しい読み方を理解する
- ・ その後、その正しい読み方を少しずつ間違えずに滑らかに速く読む

○失敗を指摘せずに、できたことを評価して

- ・ 読み間違えても読み直せばいいことを知る
- ・ できた経験を積み重ねて評価を受けることによって、苦手意識を払拭する

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目③】

「音読が遅い」



困ったな…

- ・見たことのないことばはどこからどこまでなのか分からないよ。
- ・知っている字なんだけど、読むときになると「えーっと…」となってしまう。
- ・小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」や「っ」がつく文字が苦手だな。

- ・どこからどこまでが単語なのかや単語をかたまりでパッと見ることが難しいのかも？
- ・見た文字を声にするのに、時間がかかってしまうのかも？
- ・拗音や促音などの特殊音節で混乱があるのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：文字を単語（かたまり）でとらえること】

- フラッシュカードを使って、単語をはやく読むことができるように
 - ・単語を文字のかたまりとして認識する
 - ・一文字ずつ読まなくてもパッと見て読めるようにする
- 羅列されている文字の中から単語を見つけ出せるように
 - ・文字をかたまり（単語）として見つけ出す
 - ・ばらばらの文字を組み合わせて単語を作る

指導事例②

【ポイント：文字（単語）の読み方やものの名前をはやく思い出せるように】

- フラッシュカードを使って、はやく読み方やものの名前を言えるように
 - ・パッと見て読んだり名前を言ったりする練習をする
 - ・早口ことばやかるたなどを利用して、楽しみながら学習する
- 漢字とひらがな、カタカナの関係を整理して覚えられるように
 - ・漢字の送り仮名をひらがなとカタカナの両方でひる
 - ・同じ読み方をするひらがなとカタカナが区別して分かる

指導事例③

【ポイント：特殊音節の読み書きの獲得を図ること】

- 拗音、促音、拗促音、長音などの特殊音節を読んだり書いたりできるように
 - ・特殊音節を含む物のイラストを見て、その名前を正しく書く
 - ・特殊音節の違いで別のことばになる例から、適切な特殊音節を考える（「今日」と「急」）
- ひらがな、カタカナの関係を整理して覚える
 - ・同じ特殊音節をひらがなでもカタカナでも読んだり書いたりする
 - ・特殊音節 1 文字をひらがなでもカタカナでも書くことができる

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目④】

「勝手読みがある（『行きました』を『いました』と読む）」



困ったな…

- ・間違えずに読もうと緊張して、あわててしまうんだ。
- ・間違っているとされるけど、その時自分ではわからないんだ。
- ・前にこんなふうに読んだかなと思って…

- ・一つのことにつけようとする、他のことがおそれるようになるのかも？
- ・自分の読んだ声をフィードバックしにくいのかも？
- ・間違った読み方を正しいと思い込んでいるのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：読むことにしっかりと集中できるように】

○読むところ（見るところ）が明確になるように

- ・スリットのあるシートなどを活用して、読むところだけが見えるようにして読む
- ・指で押さえながら文章を読むようにする

○読むことに集中できるように

- ・フリガナ付きの文章、短い文章などを読むことで、読むこと自体に注意を向ける
- ・文字の色が違うところや下線が付いたところに注意して読む

指導事例②

【ポイント：確実に文字を目で追っていけるように】

○目を動かしたり、注目すべきところに注意を向けることができるように

- ・授業の初めに目を動かす練習（ビジョントレーニングなど）をする
- ・文字の色が違うところや下線が付いたところに注意して読む

○文章の中に区切りをつけて、読みやすくなるように

- ・文章をいくつかに分けて、間を少し開けたり、／で区切ったりして読む
- ・文字数の少ない文章や長さの短い文章を読む練習をする

指導事例③

【ポイント：正しい読みの習得ができるように】

○誤ってあるいは勘違いして覚えている読み方の修正をできるように

- ・一文字ずつの読み方に戻って正しい読み方の習得をする
- ・先生の後について復唱し正確な読み方を覚える

○ひらがなやかたかなの読みは文字数を意識できるように

- ・どのように読み間違えているかを知る
- ・拍数（モーラ）を学習し、文字数の過不足に気付く

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目⑤】

「文章の要点を正しく読みとることが難しい」



困ったな…

- ・読むことに一生懸命になってしまって意味が分からないんだ。
- ・たくさん読むと前に読んだことを忘れてしまう…。
- ・登場人物の気持ちを聞かれてもわからない。

- ・読むことにエネルギーを使い過ぎて、理解にまで至らないのかも？
- ・次々に情報がやってくると整理できないのかも？
- ・別の人の立場で考えることが難しいのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：読むことに使うエネルギーの量を調整すること】

○一度に読む文章の量を調整して

- ・短い文章を滑らかにかつ正確に読む練習をする
- ・いくつかの短い文章を滑らかにかつ正確に読む練習をする

○文字を大きくしたり漢字にふりがなをふるなどして、読みやすい文章に

- ・大きい文字やふりがなのついた漢字を読む
- ・文節で分けたり句読点で間をとったりして、まとまりを意識して読む

指導事例②

【ポイント：少ない文章量のなかで5W1Hの確認を】

○5W1Hが分かりやすいように

- ・一つの文章内における5W1Hなどが分かる
- ・短い物語における登場人物やあらすじが分かる

○あいまいな表現の確認を

- ・「あとちょっと」「もう少し」「暗黙の了解」などが具体的に分かる
- ・「あれ」「それ」などが何を表すのかが分かる

指導事例③

【ポイント：前後関係や因果関係を明確にして人の気持ちを分かりやすく】

○前後関係や因果関係を明確にして

- ・時系列的に並べて書いた事象からその事象が起こった順番を理解する
- ・時系列的に並べて書いた事象からそれらの因果関係が分かる

○具体的な事象と感情を表す言葉や表情のイラストの一致ができるように

- ・（例：笑顔のイラストを見て）表情の絵からその時の感情を予測する練習をする
- ・（例：プレゼントをもらった）具体的な事象からその時の感情を予測する

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目⑥】

「読みにくい字を書く（字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない）」



困ったな…

- ・ 枠の中や罫線の上に書くのが難しいなあ…。
- ・ 画数の多い漢字は大きくなってしまふんだ。
- ・ 斜めの線や丸い線を書くのは苦手だなあ…。

- ・ 書き始めと書き終わりのイメージが難しいのかも？
- ・ バランスよく組み合わせる、適切な線の長さで書くことが難しいのかも？
- ・ 鉛筆の持ち方はどうかな？ 肩や肘、手首がうまく使えていないのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：まずは大きな枠や広い罫線に書くことから】

○まず、適切な形や大きさ、バランスを習得できるように

- ・ 枠内や罫線におさまる経験からバランスを学ぶ
- ・ 広いマスや罫線に書くことから始めて、少しずつ小さく狭くして書く練習を

○縦書きでも横書きでも書けるように

- ・ 縦書き、横書き両方の練習を
- ・ いろいろな向きや種類の線が描けるように（線つなぎ・なぞり書きなど）

指導事例②

【ポイント：文字の形のイメージをつかませて】

○書くことへの抵抗感を少なくして

- ・ 書き始めを分かりやすくして大きな文字をなぞる
- ・ 4分割されたマスに書く練習により、パーツのバランスを意識する

○書くこと以外からも書くことの学習が自然にできるように

- ・ 漢字を構成するパーツに分解する活動に取り組む。
- ・ 分解したパーツを組み合わせる作業を通して漢字を理解する。

指導事例③

【ポイント：体の動きや使い方のチェックも】

○鉛筆の持ち方のチェックを

- ・ 書く前に正しく鉛筆を持てているかの確認を。持ちやすい鉛筆の活用をする
- ・ 筆圧が弱いときは濃い鉛筆やサインペンを使って書く

○指・手首・肘・肩の使い方のチェックを

- ・ 手首やひじ、肩に余分な力が入っていないかの確認をする
- ・ 書く以外の場面でも、指先の動きや腕を大きく動かす活動に取り組む

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目⑦】

「独特の筆順で書く」



困ったな…

- ・正しい書き順で書いても覚えられないよ…。
- ・画数が多い漢字は、もっと覚えにくくなってしまおうんだ。
- ・何となく書ける漢字はあるんだけど、「はねる」や「はらう」のところで「×」になっちゃう…。

- ・順番に覚えることが難しいのかも？
- ・形を組み合わせる漢字を覚える方が得意なのかも？
- ・細かな部分よりもおおまかな形（マーク）として文字をとらえているのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：得意な情報処理方法を考慮して】

○書き順で覚えたほうが得意な場合は…

- ・正しい書き順で、まず先生と一緒に「空でなぞる練習」をしてから書く
- ・書き順や漢字のパーツを声に出しながら書く

○形で覚えたほうが得意な場合は…

- ・筆順にはこだわらず、その漢字の元になったものとの関連で覚える
- ・大まかな形をとらえた後、細かな部分を覚える

指導事例②

【ポイント：複雑な漢字は「分解」「構成」の学習を組み入れて】

○画数の多い漢字の書き順を覚えなくてもいいように

- ・パーツの組み合わせによって漢字を完成させる
- ・各パーツの書き順と名前を明確に覚える

○パーツ（部首など）による漢字の仲間分けを

- ・同じ部首を持つ漢字を集める学習をする
- ・『彳』がつく漢字は…」などと部首が持つ意味を理解し、大まかな意味が予測する

指導事例③

【ポイント：細かな部分にとらわれない評価を】

○最終的に「形」があれば「○」とする評価の検討を

- ・筆順にはこだわらず、その漢字の形を覚える
- ・大まかな形をとらえた後、細かな部分を覚える

○「伝わること」「読めること」を優先した評価を

- ・「とめ」や「はね」、「はらい」などには気にせず書く
- ・言いたいこと、書きたかったことが伝わることを目標にする

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目⑧】

「漢字の細かい部分を書き間違える」



困ったな…

- ・この漢字には「丶（点）」がいるのかいないのか忘れちゃった。
- ・きちんと覚えていたんだけど、横棒（一）一本書き忘れてしまった。
- ・「はねる」や「はらう」のところまで覚えきれないよ。

- ・大まかな形としては認識していても、細かな部分まで気を配れないのかも？
- ・不注意から書き忘れる部分が出てくるのかも？
- ・おおまかな形（マーク）として文字をとらえているのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：あいまいな部分は事前に確認をしてから】

○まず、大きな枠や野線内で書いて正確な漢字の習得を

- ・大きな枠の中に正しく書く経験から正しい漢字を学ぶ
- ・見本を隣に置き、気をつける場所を意識して書く

○パーツの組み合わせによって漢字を完成させる学習を

- ・各パーツの書き順と名前を明確にして覚える
- ・各パーツについては、はねやはらいなど細かいところまでを習得する

指導事例②

【ポイント：気を付ける部分には事前に声をかけて】

○書くことに集中できるように

- ・見本を手元に置いて、正しい漢字に注目できるようにする
- ・まずなぞり書きをして、正しい漢字を理解する

○書く前に大事なことの確認を

- ・書き間違いそうなところを事前に確認してから書く
- ・確実に覚えた各パーツの組合せを利用して書く

指導事例③

【ポイント：細かな部分にとらわれない評価を】

○書き順だけにとらわれない指導も

- ・筆順にはこだわらず、その漢字の形を覚える
- ・大まかな形をとらえた後、細かな部分を覚える

○「伝わること」「読めること」を優先した評価も

- ・「とめ」や「はね」、「はらい」などには気にせず書く
- ・言いたいこと、書きたかったことが伝わることを目標にする

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目⑨】

「句読点が抜けたり、正しく打つことができない」



困ったな…

・「、」や「。」をどこにつけたらいいのかわからないよ。
・「、」や「。」をどんな時につけるのかわからないよ。
・文章を読むときも、「、」や「。」の時にどうしたらいいのかわからないよ。

・句読点を打つときのルールが理解できていないのかも？
・句読点の意味がわからないのかも？
・読みの時も句読点を意識できていないのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：「、」や「。」を書く位置を分かりやすく】

○縦横の線の入った枠を活用して

- ・四分割された右上の位置に書く練習をする
- ・適切な大きさがどのくらいかわかる

○縦横の線のない枠や罫線でも書けるように

- ・「だいたい」右上の位置に書く練習をする
- ・適切な大きさがどのくらいかわかる

指導事例②

【ポイント：「、」や「。」を書くルールを分かりやすく】

○文章の途中は「、」、終わりは「。」と確認して

- ・句読点のない（打つべきところに空欄）文章に、句読点を記入する練習をする
- ・文章の途中は「、」で、終わりは「。」を理解する

○「、」や「。」をつける意味（読みと関連付けて）の確認をして

- ・「、」や「。」のところでは「読みを休むこと」を理解する
- ・「、」や「。」で休んで読むと、聴きやすいことを理解する

指導事例③

【ポイント：読むときの「、」や「。」への対応を分かりやすく】

○「、」や「。」の時には休むように

- ・「、」や「。」までをまとまりとして読む
- ・「、」や「。」までを読んだら、一瞬だけ休む

○指で文章をなぞりながら読むように

- ・「、」や「。」までをなぞりながら一気に読む
- ・「、」や「。」まで読んだら、なぞってきた指で「、」や「。」を軽く一度たたいて休む

チェックリストを活用した効果的な指導事例集

～チェック項目から見る「子どもが困っている背景」と「具体的な指導例」～

【チェック項目⑩】

「限られた量の作文や決まったパターンの文章しか書かない」



困ったな…

- ・考えたことを頭の中で文章にできないよ。
- ・書こうとしていたことを忘れてしまうんだ…。
- ・いつも書いているような文章を書いた方が楽だから…。

- ・考えたことなどを文章に組み立てることが難しいのかも？
- ・書こうとしたことを保持するのが難しいのかも？
- ・同じスタイルの文章しか書いてこなかったのかも？

理由は…



指導事例①

【ポイント：書こうとすることを整理して組み立てられるように】

○書きたいことのイメージを広げるために

- ・キーワードから派生することばや事象を書き出す
- ・5W1Hと書く順番を整理する

○自分の感情の表現ができるように

- ・その前後に何があったのかを時系列に整理する
- ・前後にあったことから自分の感情がどのようなものであるかを考える

指導事例②

【ポイント：書こうとすることを忘れないために】

○書くために事前に整理したものを手元に置いて

- ・5W1Hの確認をする
- ・整理したものをどんな順番で書くかを整理する

○書いた後に書きたかったこととの一致の確認を

- ・書いたものを自分で読んでみる
- ・書くために事前に整理したものとのも同じであることを確認する

指導事例③

【ポイント：文章のスタイルのバリエーションを増やせるように】

○5W1Hの組み合わせを増やすために

- ・5W1Hでよく使うことばをカード化して組み合わせる
- ・色別に5W1Hのカードを作成し、5W1Hが常に意識できるようにする

○自分以外を主語とした文章の作成を

- ・他人や物の立場で文章を書く練習をする（イラストの状況説明・吹き出しへの記入）
- ・他人の感情を含んだ文章を書く練習をする（イラストの状況説明・吹き出しへの記入）